

教育目標		のびのびと力いっぱい活動する子どもの育成						
重点目標		1、友だちと共に遊びを創り出す保育を実践する。 2、心身共に健康な幼児を育成する。 3、家庭・地域社会との連携を図り、信頼される幼稚園づくりに努める。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	自ら学び考える力を育む教育の推進	・子どもたちの考える力を育成する。 ・学期ごとに保育力の向上と改善をめざした研究をすすめる。	・研究テーマに取り入れ、考える姿、考える力につながる姿を保育場面から具体的にカードに記入し、カンファレンスを行う。 ・毎学期1回以上、全職員が室内・戸外遊び、クラス活動の園内研修として保育公開を行い、講師を招聘して学ぶ。	・仮説をたてた項目の考える力が育成されたか。 ・すべてのクラスが学期に1回以上保育公開をおこなう。	A	・昨年度の研究より明らかになったことをもとにし、新たに考える力に焦点を絞り、検証することができた。 ・宮城教育大学の佐藤教授を引き続き講師に招き、園内研究会を通して研究を進めることができた。	・引き続き、講師招聘した園内研究を深め、考える力の育成に取り組む。	・保育をオープンにし、園内研究の充実と問題解決に向けた方策を重点化した研究がなされた。
	子どもたち一人ひとりの個性や能力に応じた教育の推進	・一人一人が考える力を育成するための教育を推進する。	・計画性、応答性、信頼感の3つの視点から保育を立案し、実践していく。 ・考える力を育成するための状況マップを作成し、保育の実践につなげていく。	・毎週末、作成した状況マップについての話し合いを行う。	A	・3つの視点から保育を立案し、実践することで、24か月の保育を通して子どもの育ちが大きく得られた。 ・状況マップの話し合いを毎週末することができなかった。	・毎週末状況マップについての話し合い時間が取りにくい実態があった。長いスパンの期間を定め、共通に話し合うことを進めていく必要がある。	・個性や能力に応じた教育推進に真摯に向かっていた。
	特別支援教育の推進・充実	・特別支援教育コーディネーターを中心として、専門機関とも連携しながら、共に育つ特別支援教育に努める。 ・一人ひとりのよさや違いを認め合い、共に育ち合う子どもの育成に努める。	・子どもの育ちを捉え、個別の指導計画や個人記録を作成し、職員間で指導内容や指導方法の検討、共通理解を行う。 ・コンサルテーションなどの専門機関と連携し、具体的な支援内容や方法を探っていく。	・個別の指導計画にあげた短期目標の姿になる。 ・話し合いや専門機関との連携でわかった具体的な手立てを実践する。	A	・特別支援教育の研究会もを行い、個別指導計画を大切に、職員間で連携した教育が行えた。24か月の保育を通して、共に育ち合う特別支援教育ができた。 ・今年度新たに、コンサルテーションを活用し、共通場面を通しての具体的な姿からより良い支援を探ることができた。 ・インクルーシブ教育として新たな講師を招聘し、気づきから手立てにつなげることができた。	・今年度より始めたコンサルテーションの活用、新たな講師招聘研修会を来年度も引き続き活用し、教師の保育の質を向上させる。	・今後も専門機関と連携し、共に育つ特別支援教育の充実を努めてほしい。
豊かな心・健やかな体	豊かな心を育む道徳教育、情操教育の推進	・すこやかネットまつぎ10箇条を活用した心の教育をおこなう。 ・子どもの人権や子育てを振り返り、人権について考え合う。	・園だよりとホワイトボードで、毎月1項目、目標を取り上げ家庭と連携して取り組む。 ・子育てや自尊感情、一人ひとりを大切にすることなどに視点をあて、保護者同士が意見を出し合う機会をつくる。	・保護者アンケートにおいて「すこやかネットまつぎに関心をもっている」と回答した割合が80%以上になる。 ・年に一度、人権に視点をあてた学級懇談会を行う。	B	・新たに始めたすこやかネットの取り組みでは、園だより、ホワイトボードでの啓発を新たに始めたが、家庭で話題にしている保護者が少ない実態をつかむことができた。 ・人権に視点をあてた学級懇談会を持ち、いろいろな価値観に気づいたり、自分を振り返ったりする機会となった。	・今年度新たに始めた取り組みなので、来年度も引き続き啓発していくと共に、クラスの中で子どもにより意識した保育をすすめていく。	・今後も保護者向けの人権学習の充実、自尊感情の育みに取り組んでいく。
	子どもの健やかな体づくりの推進	・早寝・早起き・朝ごはんを定着させ、基本的な生活習慣を確立させる。	・ほけんの話で使っていた教材を子どもが目にする場所に掲示する。 ・けんこうカレンダーの保護者のコメントを次回のけんこうカレンダーだよりに掲載し、保護者同士の情報交換を図る。 ・食育研修会を実施し、保護者の食への関心を高めていく。	・子どもが触れたり、友だち同士で話題にあげたりしていたか。 ・けんこうカレンダーだよりにより毎回コメントを掲載する。 ・食育研修会の参加率が90%だったか。	A	・ほけんの話のあと、パブリックスペースに教材を設定することができ、子どものみならず、園外の方からも良い評価をいただいた。 ・子どもの健康を考え、けんこうカレンダーに取り組む保護者の姿勢が高まった。 ・食育研修会では、保健士、栄養士の方に来ていただき、専門的な話も聞くことができた。	・子どもも大人も健康に関心が持てる教材の工夫を続けていき、園と家庭の連携をさらにつなげていく。 ・2年保育ということ視野に入れ、いろいろな内容が学べるよう、食育研修会を企画していく。	・家庭と連携し食育への関心を高めていく為、今年度のような新たな企画に取り組んでいくと良い。
保護者との連携	家庭教育の推進	・家庭で子どもと向き合う時間の推進をする。 ・全保護者と子どもの育ちについて共有する。	・えほんカードの改善、よみかせカードの取り組みを年度初めから行う。 ・読み聞かせカードを掲示し保護者啓発を行っていく。 ・一人ひとりの保護者とれんらくちょうを活用した連携を行う。	・90%の家庭で、月1回読み聞かせを行う。 ・全保護者とれんらくちょうでのやりとりを行う。	B	・始めた昨年度に比べ、一家庭当たりの冊数が増え、子どもも読み聞かせの話題をよく話すようになった。 ・れんらくちょうでのやりとりは、今後も活用していく必要がある。 ・市の出前講座でICT活用に関する研修会を開いた。現代社会の課題と子どもへの対応について学ぶことができた。	・読み聞かせに焦点化したアンケート等実態把握をし、楽しんで子どもと向き合う時間の工夫につなげていく。 ・定期的に行うなど、れんらくちょうの活用をすすめていく。 ・園での研修会は保護者からの希望を聞く機会などをとり、いろいろな内容が学べる機会とする。	・家庭での豊かな心を育む読み聞かせの習慣が定着するよう、引き続き取り組んでほしい。 ・クラスだより、連絡帳の活用に積極的に取り組んでほしい。
	開かれ信頼される学校園	・積極的に園情報を発信する。	・園だより・クラスだよりを月1回発行し、地域にも配布する。 ・園での生活や教育がわかりやすいように、写真を活用し、視覚的に知らせていく。 ・更新しやすいHPのシステムに変える。 ・県民まちなみ事業や、苗圃を活用する会と、地域ボランティアの方との活動を取り入れる。 ・地域の会との交流の機会をもつ。	・地区会で園の様子を伝える。 ・月に3回は、その時期の様子や生活の写真を掲示する。 ・月1回以上更新する。 ・地域の会に参加する。 ・年度当初に計画を立案する。	A	・今年度も三世代交流事業の米作りに参加し、不思議に思ったことわからないことなどを子どもが質問し、教えて下さる機会があったり、もちつきの際のもち米をいただいたりと地域が園を大切にしてくださっている。 ・写真掲示、新たなHPシステムへの変更などができた。	・門外の掲示について来年度検討事項とする。 ・写真掲示、HPの更新は、引き続き進めていく。	・日頃の子どもたちの写真掲示、積極的な地域・保護者への情報発信などの成果を今後も継続してほしい。 ・地域の行事参加や地域の方を招いての会など、今後も引き続き継続してほしい。

学校関係者評価総括

- ・昨年度の研究から積み上げた24か月の保育、新たな専門機関との連携を取り入れた工夫からの成果が見られた。
- ・子ども、保護者、地域と共に豊かな心と体を育む活動を行い、互いの意識を高め合うことができた。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・今年度の成果を保育に意識して取り入れながら、門外の掲示板、クラスだより、れんらくちょうのさらなる活用を行い、情報発信に努める。
- ・昨年度、今年度と新たに取り入れた専門機関活用の工夫を24か月の計画として保育、研修共に位置付けていく。